

トントウサポーターとは？

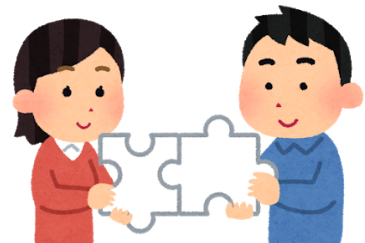


トントウプロジェクトは、トントウフェスティバルを継続開催する中で、関わった人とともに育てていくコミュニティです。プロジェクトの主役となるのは、「ちがい」と「おなじ」を体感し、楽しみながらソーシャルインクルージョンを達成する」というビジョンに向かって、自主的に行動する人。そんな仲間を「トントウサポーター」と呼んでいます。

トントウサポーターってどんな人たち？

トントウサポーターは、

- ・自分と相手を大切にしようとし、尊重します。
- ・自分らしさを追求し、プロジェクトに活かそうとします。
- ・I（私）メッセージを伝え、相手の話を聞きます。
- ・「当たり前ってなんだ？」を考えます。



トントウサポーターは、

- ・それぞれのちがい、おなじを知り、どんな人ともフラットな関係をつくれます。
- ・ビジョンを目指す多様な仲間と協力し、体験を楽しみます。
- ・仲間と対話し、成功や失敗をシェアして一緒に成長していきます。



トントウサポーターは、

- ・プロジェクトでやってみたいことがあります、実現に向けて行動します。
- ・プロジェクト・フェスのホストとして、楽しいプログラム提供などに協力します。
- ・**一人一人に役割があること**を確認し合います。



トントウサポーターは、

- ・仲間と協力して、自主的にプロジェクトを盛り上げます。
- ・ビジョンに沿った意識や行動を日常に活かしてきます。
- ・ビジョンがさらに社会に広がるよう、新しい仲間呼び掛けていきます。



トントウプロジェクトのこれから

トントウ フェスティバルは、これから10年間、毎年開催していく予定のフェスティバルです。

トントウ プロジェクトは、トントウサポーターのみなさんと一緒に成長していきたいと思っています。

今年、来年・・・と開催を続けていくにつれて、毎年想いに共感してくれるトントウサポーターのみなさんが増えていき、一人一人のトントウサポーターのみなさんが、それぞれの**好きなことや得意なこと**を活かして、一緒にプロジェクトを作っていく。

そのようにしてトントウの輪が広がり、日本全国にトントウ フェスティバルの会場が広がっていき、**「みんなちがう けどおなじ」**の合言葉のもと、それぞれの場所で、それぞれのトントウたちが作り上げていくプロジェクトになっていきます。

ゲストとして、初めてトントウ フェスティバルに来た人が、次の年にはホストとして、フェスを作り上げるトントウになる。トントウ プロジェクトはそれぞれのトントウサポーターによる日常の中の取り組みとして、そしてトントウ フェスティバルでは、**年に1度のお祭り**として、それぞれのトントウたちが出会い、みんなで作り上げ、楽しむお祭りに。そんな姿を目指しています。

そして10年後には、**「ディーセント・ワーク」**という考え方が社会に浸透し、みんなにとって当たり前の考え方になっていることを目指しています。

私たちの考える「ディーセント・ワーク」は、具体的には「一人ひとりが、どこかのコミュニティやグループの中で役割があり、本人も他人もその役割を認識していること」というものです。

トントゥ プロジェクトとSDGs

トントゥ フェスティバルは、これから10年間、毎年開催していく予定のフェスティバルです。

トントゥ プロジェクトは2030年までの**持続可能な開発目標 (SDGs)** の達成に向けて、一緒に歩んでいきます。

トントゥ フェスティバルに参加することが、特に以下のSDGsの達成に向けた取り組みにつながります。

目標1「**貧困をなくそう**」

会場内のショップで福祉事業所で作られた商品を購入することや、福祉事業所で作られた素材を使ったものづくりワークショップに参加することを通じて、障がいのある方が少しでも多くの賃金を受け取ることにつながります

1 貧困を
なくそう



目標4「**質の高い教育をみんなに**」

障がいのある人それぞれの特性を活かしたものづくりによって生まれた商品を会場内のショップやワークショップなどで販売・使用することで、障がいのある人が職業訓練をする機会やお仕事を生み出すことにつながります

4 質の高い教育を
みんなに



目標5「**ジェンダー平等を実現しよう**」

障がいのある人全体に言えることですが、より障がいのある女性はこれまで労働力としてみなされておらず、「保護される人」や「家にいる人」とみなされてきました。障がいのある人の働き方についての展示や丁寧に作られた商品に触れることを通して、お互いの違いを知り、お互いを理解することにつながります

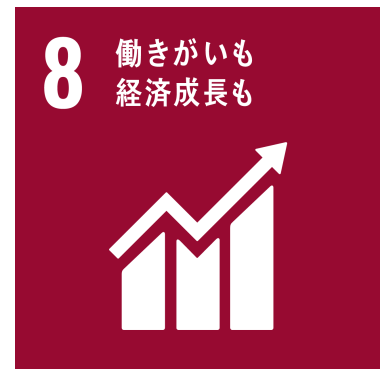
また、障がいのある人の特に母親が多大なケアの責任を担ってきたことに着目、発信することで、社会全体でサポートし合えるような環境づくりを目指します

5 ジェンダー平等を
実現しよう



目標8「働きがいも経済成長も」

障がいのある人それぞれの特性を活かし、付加価値の高いものづくりによって生まれた商品の販売や使用を通じて、障がいのある人の工賃向上と働きがいを感じられる仕事を生み出すことにつながります



目標10「人や国の不平等をなくそう」

Liveや展示、ワークショップといった、障がいのある人やその家族、福祉分野の人々と、社会全体が混ざり合う“サプライズ”の仕掛けにより、お互いの違うところと同じところを知り、理解するきっかけになります



目標12「つくる責任 つかう責任」

“リサイクル”や“アップサイクル”など、環境に配慮したものづくりに取り組む福祉事業所の商品の展示やワークショップでの使用を通して、障がいのある人の工賃向上と環境への配慮の双方を実現することにつながります

また、障がいのある人をはじめ、他者の多様でナチュラルな「働き方」や「ライフスタイル」を知ることで、自分らしい豊かな「働き方」や「ライフスタイル」を発見するきっかけになります

